

[成果情報名]ジベレリン処理栽培に適したわい性サヤインゲン「サクサク王子ネオ」

[要約]ジベレリン処理栽培におけるわい性サヤインゲン「サクサク王子ネオ」では、沖縄県の主力品種「サーベル」と比較し、主茎長は短い、分枝数が多く、可販果収量が約2割多い。また、摘葉や収穫作業の省力化が図られる。

[キーワード]わい性サヤインゲン、ジベレリン処理栽培、可販果収量、省力化

[担当]沖縄県農業研究センター・野菜花き班

[代表連絡先]電話 098-840-8506

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

わい性サヤインゲンのジベレリン処理栽培は、増収技術として導入する生産農家が増えている。しかし、沖縄県の主力品種「サーベル」の種子供給が不安定なため、新たな品種の選定が望まれている。そのため、ジベレリン処理栽培におけるわい性サヤインゲンの品種選定試験を行い、有望品種として「サクサク王子ネオ」を選定した。そこで、「サクサク王子ネオ」の収量性、ならびに摘葉および収穫の作業性について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「サクサク王子ネオ」の主茎節数は、「サーベル」と比較して同等であり、主茎長は有意に短い、分枝数が多く、可販果収量が多い（表1）。
2. 「サクサク王子ネオ」の旬別の可販果収量は、「サーベル」と同様な推移を示すが、2回目、3回目の収穫ピークの収量が高い（図1）。
3. 株当たりの全体の1/3を摘葉する場合（「サーベル」の摘葉基準量）、「サクサク王子ネオ」摘葉量は、「サーベル」より少なく、摘葉時間が短い。また、1kg当たりの収穫時間が短い傾向である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、畝幅140cm、株間45cmの1条植えの栽培条件下で処理濃度5ppmのジベレリンを播種（11月10日）後7および11日に1株当たり2ml散布し、散布後は、遮光や側窓管理により相対湿度を高めるよう管理した栽培試験の結果である。
2. 「サクサク王子ネオ」の収穫初期は、ジベレリン処理の影響による変形莢が僅かに認められるため、変形莢が肥大する前に適宜摘み取る。
3. 「サクサク王子ネオ」の莢形状は、くびれ（凹凸）がなく、ややS字にわん曲する。莢色は、やや淡緑である。また、脱莢性はやや難である。

[具体的データ]

表1「サーベル」および「サクサク王子ネオ」の生育および収量

試験年度	品種名	主茎長 (cm)	節数 (節)	分枝数		可販果 (kg/10a) ^z	規格外 (kg/10a)	総収量 (kg/10a)
				一次 (本)	二次 (本)			
2015年度	サーベル	148.3	5.0	56.3	198.2	6,224 (100) ^z	807 (100)	7,031 (100)
	サクサク王子ネオ	118.5	5.0	97.6	351.3	7,656 (123)	631 (78)	8,287 (118)
	t検定 ^y	**	ns	**	**	*	*	*
2016年度	サーベル	123.2	5.0	45.7	122.3	6,749 (100)	947 (100)	7,696 (100)
	サクサク王子ネオ	96.4	5.0	83.3	193.5	7,930 (117)	775 (82)	8,704 (113)
	t検定	**	ns	**	**	*	ns	*

収穫期間: 2015年12月25日~2016年4月28日(2015年度)、2016年12月26日~2017年5月8日(2016年度)

^z括弧内は、同一年度の「サーベル」を100とした場合の割合

^y**および*は1%および5%水準で有意差あり、nsは有意差なし(n=4~5)

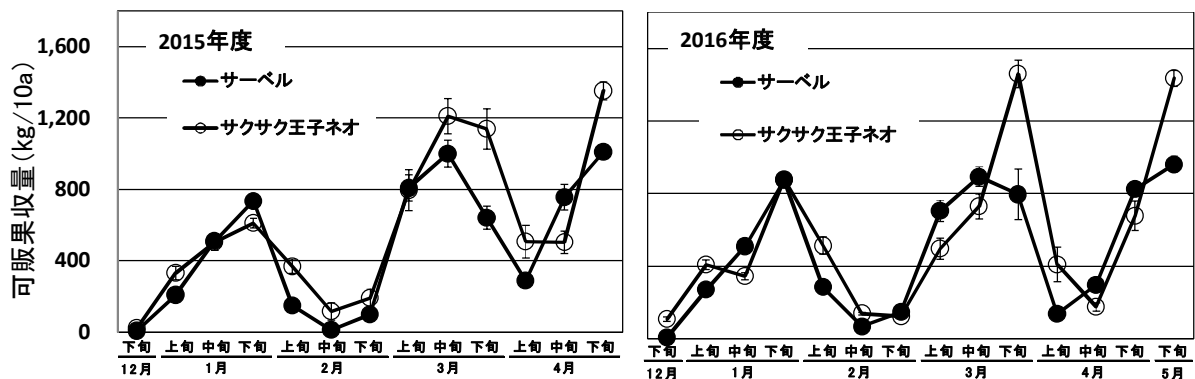


図1 「サーベル」および「サクサク王子ネオ」の可販果収量の旬別推移
図中の誤差範囲は標準誤差(n=4~5)

表2 「サーベル」および「サクサク王子ネオ」の摘葉および収穫作業

試験年度	品種名	摘葉作業 ^z		収穫作業 ^y	
		摘葉量 (kg/10a)	摘葉時間 (時間/10a)	収穫本数 (本/kg)	収穫時間 (分/kg)
2015年度	サーベル	315	148	160	26
	サクサク王子ネオ	249	126	175	23
	t検定 ^x	*	*	ns	ns
2016年度	サーベル	336	135	172	27
	サクサク王子ネオ	156	68	191	21
	t検定	*	*	*	*

^z 摘葉調査日: 2016年2月16日、2017年2月21日

^y 収穫調査日: 2016年3月21日、2017年3月27日

^x *は5%水準で有意差あり、nsは有意差なし(n=4~5)

(沖縄県農業研究センター)

[その他]

予算区分: 県単

研究期間: 2014~2016年度

研究担当者: 棚原尚哉、伊是名純二、渡慶次美歌、玉城盛俊

発表論文等: 棚原、玉城(2016)園学研、16(別1):88